

| | |
|--------|--|
| 研究課題番号 | 2RF-1803 |
| 研究課題名 | 超高解像度気候予測値を用いた森林生態系の炭素収支の将来予測と森林管理の効果の評価 |
| 研究実施期間 | 平成30年度～令和2年度 |
| 研究機関名 | 長野県環境保全研究所 |
| 研究代表者名 | 栗林 正俊 |

1. 委員の指摘及び提言概要

現場に特化し、カラ松林の管理に集中した堅実な研究であり、地方自治体の研究所の活動として評価できる。衛星観測に基づくフェノロジー推計式より、陸域生態系モデルに地上観測に基づくフェノロジー推計式を組み込むことによって落葉樹の生態系純生産量の高精度化を可能にする等の成果を挙げており、県における今後の森林整備計画に反映されることが期待される。一方、中間評価で指摘された研究推進上の取り組みに関して十分に応答できていない点も見られ、また、十分な学術的成果をあげているにもかかわらず、査読付き論文が出ていない点は物足りない。これまでの実験データをもとに是非数編の査読論文としてまとめることを期待する。

2. 採点結果

評価ランク：A